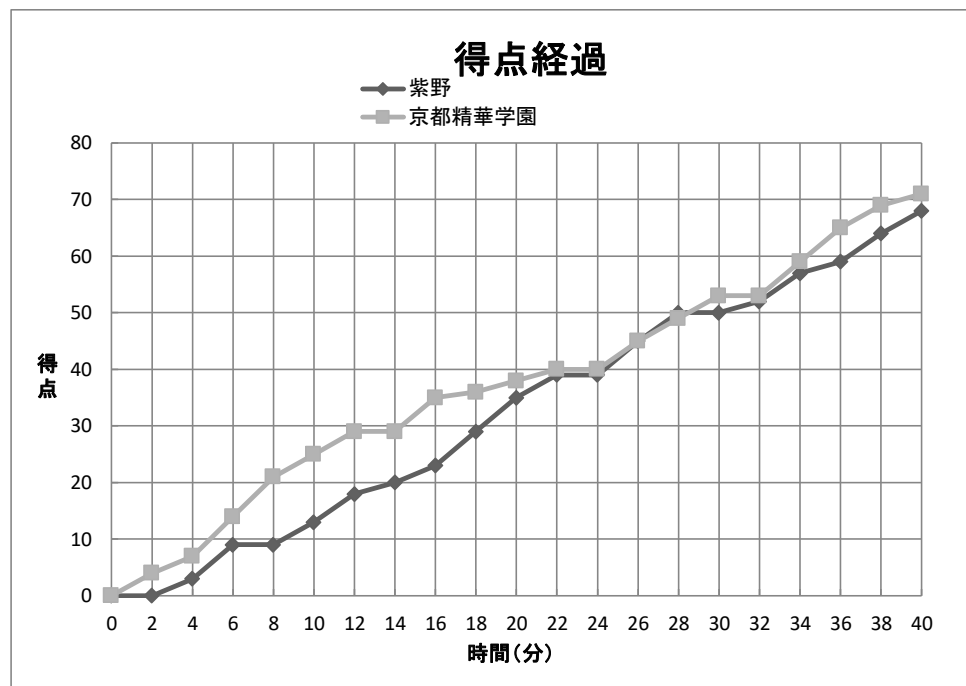


平成30年 度全国高等学校総合体育大会 京都府予選 兼
第65回 近畿高等学校バスケットボール大会 京都府予選

個人トータル表

女子		平成30年6月2日 12:00 開始											
決勝		ハンナリーズアリーナ M											
紫野	68	13 1st 25	22 2nd 13	15 3rd 15	18 4th 18	71	◎ 京都精華学園						
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	澤岡 夢乃	8	2	1	0	2	* 4	石島 侑果	7	2	0	1	2
* 5	中原 涼那	21	0	9	3	4	* 5	山本 静花	22	1	9	1	2
* 6	松本 晏奈	8	1	2	1	1	* 6	室井 愛生	5	1	1	0	2
* 7	阪本 咲希	10	0	5	0	3	7	渡邊 夕風	4	0	2	0	-
8	野下 瑞希	-	-	-	-	-	8	竜崎 まなつ	0	0	0	0	-
9	荻田 歩	-	-	-	-	-	9	山口 あゆみ	-	-	-	-	-
10	青木 遙	-	-	-	-	-	10	山下 このは	-	-	-	-	-
11	森蔭 美菜璃	-	-	-	-	-	11	田中 乃愛	-	-	-	-	-
12	中原 百望	0	0	0	0	-	* 12	高橋 未来	13	1	4	2	2
13	阪本 真希	-	-	-	-	-	13	松尾 祥花	0	0	0	0	-
* 14	吉村 朋子	19	0	7	5	3	14	関 瑞葵	6	0	2	2	1
15	東 史野	2	0	0	2	-	15	白石 あゆみ	0	0	0	0	5
16	原 菜紘	-	-	-	-	-	16	川原 和	-	-	-	-	-
17	松浦 萌乃	0	0	0	0	-	17	荻田 美	6	0	3	0	2
18	定久 真奈	0	0	0	0	1	* 18	柴田 柚菜	8	0	4	0	2
コーチ	吉田 聡						コーチ	山本 綱義					
Aコーチ	野村 安寿里						Aコーチ	町田 瀬名					
合計		68	3	24	11	14	合計		71	5	25	6	18
主審: 小出 聡子													
第1副審: 高野 杏実													
第2副審: 加藤 毅													



〔戦評〕
決勝戦は6年連続となる京都精華学園VS紫野のカード。精華は体格に恵まれたセンター陣や、オフェンス力のある外回りのプレーヤーを上手く組み合わせ、バランス良く確実に攻める。一方紫野は#5、#6、#14を中心とした外からのドライブで果敢にリングへ向かうが、精華の速いヘルプディフェンスに対応できず、なかなか得点できない状況に苦しむ。25-13の精華リードで1P終了。2Pは紫野が序盤から#4の3Pや、#7のゴール下のパワープレーで、3年生を中心に流れを引き寄せるきっかけをつくる。#12も1年生ながらにして、ゴール下に切れ込んだ#4へ大胆かつ鋭いパスを通し、ナイスアシストでチームに貢献する。29-20の10点差を切ったところで精華のタイムアウト。しかし紫野の良い流れは続き、38-35の3点差で前半終了。3Pは紫野#7が落ち着いたジャンプシュートを決め、早くも1点差に。その後#14のドライブインからのシュートが決まり、紫野が逆転に成功。しかし精華の#18の高さのあるシュートで再び精華リード。開始2分を切ったところで精華はツープラトンを起用し、5人総替えて流れを引き戻しにかかる。その後両チームとも24秒オーバータイムを取るなどディフェンスが光る時間帯が続く。互いに1歩も譲らない攻防が繰り広げられ、53-50で3点差のまま最終ピリオドへ。4Pは3P同様、開始早々に紫野の#6のドライブが決まり、1点差に。しかし精華#5のポジティブターンオーバーで、速攻に成功。再び互いに譲らぬ攻防が繰り広げられる。精華のシュートが決まった直後の紫野のエンドスローインを、精華の#12がパスカットし、得点に繋げる。紫野もシュートを決め返すが、精華の#12の3Pが決まり、少しずつ点差が開き始める。残り5分半で、すかさず紫野はタイムアウトを要求。しかし、精華#4の3Pや、精華#5の1対1が止められず、69-59の10点差まで広がった。たまたま紫野は最後のタイムアウトを要求する。ゾーンディフェンスを起用しながら逆転のきっかけを掴みに行く。逆転勝利を信じて紫野#5が左からのドライブインでリングへ向い、それがファールとなりフリースローを1本決めた時点で再び69-68の1点差まで詰め寄る。逃げ切りたい精華は2年生の#14がボールを持った時点で空いているスペースに対してドライブを仕掛ける。それがファールとなり、緊張の中確実にフリースローを2本決め71-68の3点差でゲーム終了となった。両チームともスピード感のある能力の高いプレーが光り、会場は大いに盛り上がった。勝利した精華は、この夏愛知でのインターハイで熱い戦いを繰り広げてくれるだろう。

記録：南陽高校 戦評：久保 春奈〔京都市立西京高等学校〕